
英雄の肖像

パンター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

英雄の肖像

【Nコード】

N1235V

【作者名】

パンター

【あらすじ】

独裁者が残した遺産とは。その真意は本人にしか分からない。

地雷撤去装甲車MICLIC (Mine Clearing Line Charge) で地雷原を広域爆破して100メートルずつ進んでいく。

「いよいよ対面ですね、最悪の戦争の遺産と」

「そうだな、あのクソツタレの独裁者が残した遺産にもうすぐ手が届くわけだ」

地雷撤去している二人の男がMICLICの地雷撤去作業を遠くから双眼鏡で見ながら感慨深げに話している。

二人はこの国の独裁者と戦い続けた政治家だった。思想犯として逮捕され、政治犯専用の刑務所という名の収容所で過酷な労働に従事させられていた。

十年以上この国は最悪の独裁者に支配されていた。彼もかつては横暴な王政に反発して革命戦士として戦ってきた同志だった。

革命軍は非公式に自由主義世界の盟主の軍事支援を受けて王国軍と三年にわたって戦闘を続け、ついに国王一族の国外逃亡という勝利を手に入れた。

政治犯は全て解放され、臨時国民政府が誕生した。

そして政治犯を開放した彼が初代大統領に選ばれた。その事には誰も異論はなかった。二年後までは。

半年後、大統領となった彼は秘書だった女性と結婚した。そこが転落の一步だった。

強欲で狡猾な彼女は、大統領を色香で籠絡し贅沢な散財を権力者の特権であるかのように論していく。

彼はそれを何の疑問も抱かずに受け入れてしまった。

荒廃した国内復興の為に他国から援助してもらった支援金を私物化し、その大半が大統領夫人の豪華なブランド品の衣服や装飾品の

購入費に当てられた。

それだけでは足りず、僅かな国民の収入に重税をかけ絞り取っていった。

国民の低所得者層から餓死するほどの困窮が各地で発生するに至って再び打倒政府を掲げる者達が現れた。

反大統領勢力は各地で狼煙が上げ、まとまって革命軍となった。

さらに再び先進国が介入してきた。この国にあるレアメタルが目的であったのだが。

最新の兵器を貸与された革命軍は王国軍を追い詰めていった。

そしてついに革命軍が大統領府に近づいてきたと知るや、以前支援を受けた自由主義国の盟主と裏取引して亡命への逃走経路を確保した。

革命軍が大統領官邸に突入したとき、もぬけの殻だった。換金できる貴金属や宝石は全て持ち去ったらしく残っていたのは総額数百万ドルにも及ぶ婦人のドレスやバッグ靴の一部と食器類、家具であった。逃走にかさばるものは持っていけなかったからである。

今度こそと新しい臨時政府が国政を摂り始めた。

そんな時、かつて元大統領が革命闘士だった頃のアジトに大統領が隠匿した財宝があるという噂が立ち始めた。

ジャングルの奥にある掘っ建て小屋が何故か広大な地雷原に守られて入れないようになっていたからだだった。

その小屋にはなにかある。

臨時政府は治安維持のために派遣されてきていた国連軍に工兵部隊に地雷撤去を依頼した。

そしてついに小屋に辿り着こうとしていた。

最後の爆発が起こった。

ついに小屋までの道が作られたのだ。

二人の臨時政府から派遣されてきていた調査員の男達は小屋に入っていた。

そこには朽ちかけた木製のテーブルが中央にあるだけであった。

その上には、鈍い銀色を放つ人形の像があった。高さは12、3センチほど。

それはニッケル硬貨を溶かし粗末な鋳型で作ったかつての大統領の革命闘士時代の像であった。

「これは、国王を追い出した記念にあの男を讃えて作られた英雄像……」

「材料がなかったから硬貨を溶かして作ったんだよ、これ」

男の一人がその像を取り上げて小屋から出てきた。

「あいつは何時までも自分を英雄だと信じていたのか。自分の方がいつの間にか篡奪者に成り代わったというのに」

「少しは後悔の念があったのかもしれない。あの時の自分に戻りたいと思っていたのかも。それでこの像を誰にも触れさせないように地雷原の中央に置いたとか。自分の中には革命闘士の魂は残っているんだぞ、って」

「さあな。分かるものか。それはただの妄想さ」

男はしばらくその像を弄んでいたが、地面に叩きつけ踏みにじった。

「あばよ。愚かな独裁者」

（後書き）

久しぶりに上げたような気がする。夏に負けた。台風にも負けた。あー暑い。

連続の方も近いうちにきつと上げますんでよろしくおねがいします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1235v/>

英雄の肖像

2011年10月8日21時45分発行